校歌に「平和」の願い

本年度閉校の安中松井田北中

3年・湯本さん調査で判明　作詞者兄ら戦死多数

本年度末で閉校する安中松井田北中（国峯智校長）の生徒が、学び舎を「平和な姿」と表現する校歌が生まれた背景を調べている。お年寄りへの聞き取りや資料から、作詞者の家族を含め地元の多くの若者が太平洋戦争で戦死していたことが判明した。こうした悲しみを背景に平和への願いを込めたとみられ、10月に開く最後の学園祭での発表に向け、さらに調査を進める。

故上原さんが遺した歌詞について、長男の尚さん（手前右）にインタビューする湯本さん（同左）

戦後77年

故上原桂さん

同校は終戦2年後の1947年に前身の旧細野中として設立。54年の市町村合併を経て62年に現校名になった。校歌は細野中時代の誕生とみられるが、住民だった故上原桂さんが作詞したことなどを除き、詳しい経緯は分からなくなっていた。

同校は現在、閉校を前に全校生徒25人と教職員が細野中時代から75年間の歴史を調査している。校歌は曽祖母が上原さんのいとこに当たる3年の湯本さくらさん(14)が担当。祖母の京子さん(72)や教諭らと協力し、上原さんの長男で同校卒業生の尚さん(74)ら地元住民に聞き取りをしたり、学校に残る記録などを調べたりしている。

その結果、上原さんが海軍軍人だった兄2人を戦争で亡くしたことや、学区内の20～40代155人が戦争の犠牲になっていたことが判明した。多くが南方戦線で戦死したという。

上原さんは82年に57歳で死去した。穏やかな人柄で区長や民生委員も務め、地元の婦人会や青年団のためにオリジナル曲を作曲していたという。作詞時は20～30代とみられ、京子さんは「母の兄も海外で戦死した。家族や身近な人が亡くなったことが歌詞に反映されたのでは」と話す。

悴田匡一教諭(60)も「開校当初は戦争で家族を亡くした生徒もいただろう。校歌が希望を与えたのではないか」とみる。

湯本さんは「地元にそんなに戦死者がいたことに驚いた。歌詞の深い意味を知り、もっと学びたくなった。校歌がなくなるのは悲しい。どんな形になるか分からないが残したい」と話している。

（田島孝朗）

松井田北中校歌

煙る浅間を背にして
緑にはゆる妙義嶺を
望みし丘に朝夕の
我等（われら）の祈りそのままに
平和な姿　映えて立つ
おお我等が北中学校

※1番のみ

休日部活動の地域移行

吉岡 スポ少を中核

町教委が検討委　本年度から段階的に

ツ少年団を中核とし、地域クラブや民間企業などを交えながら、本年度から2025年度にかけて各部活動の地域移行を進める。

町唯一の中学校である吉岡中では、既に柔道部の全部員がスポーツ少年団に所属し、1学期から先行的に

良教育長は「国が具体的な方向性を示す中、傍観するのは子どもたちに不安を抱かせる」と本年度から移行を始める意義を強調した。

町教委によると、吉岡中の1～2年生と保護者へのアンケート調査で、生徒の59・6%が地域移行を「生

豪快 炎の大輪

南牧・火とぼし　3年ぶり公開

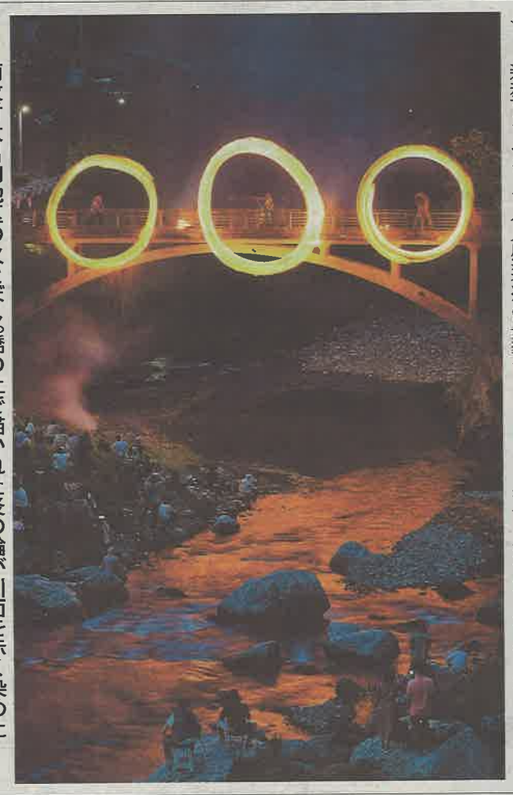
国の選択無形民俗文化財で、南牧村に400年以上前から伝わる祭り「火とぼし」が14日、大日向地区で始まった。村民らが夜闇に浮かぶ炎の大輪を眺め、無病息災や五穀豊穣（ごこくほうじょう）を願った。

新型コロナウイルス感染症の影響で一般公開は3年ぶり。南牧川に架かる大日向橋の上で、村民らが点火したわらの束を回し、太鼓や笛を演奏した。

わらの束を回した市川勲さん(39)＝富岡市中高瀬＝は「熱くて重かった。腕が疲れた」と話した。

15日も午後5時半ごろから始める。太鼓を叩きながら近くの寺まで練り歩いたり、小学生がわらで作ったたいまつを山から橋まで運んだりもする。

（文　黒沢豊、写真　新井諭）



南牧村大日向地区の火とぼし。橋の上で描かれた炎の輪が川面を赤く染めた＝14日午後7時ごろ

伊勢崎市がコロナ、物価高で調査

事業者85%「悪影響」

新型コロナウイルス感染症と物価高騰の影響について、伊勢崎市内の事業者の8割以上が「悪影響があった」と受け止めていることが市のアンケート調査で明らかになった。市民向けアンケートでも燃料費や物価高騰への負担軽減を求める回答が8割近くに上った。

事業者向けアンケートで「新型コロナウイルス感染症や物価高騰」について質問したところ、85%が「悪影響があった」と回答した。具体的な内容は「売上や受注の停滞、不振」が74%、「原材料調達の難化」が35%だった。

市に期待する支援策は、「高騰する燃料や電気等のエネルギー調達への支援」が64%、「休業要請や事業継続のための協力金・給付金」が57%と過半数を超えた。

市民向けアンケートで「困っていること、心配に感じていること」を問うと、「支出の増加」が71%で最も多く、「外出や交流の機会の減少」66%、「スポーツや文化活動の機会の減少」39%などと続いた。

市に取り組んでほしい対策は「燃料費や物価高騰に対する負担軽減」が77%で最も多く、2番目の「プレミアム商品券の発行」の35%を大きく上回った。

アンケートは6月、18歳以上の市内在住者と市内に本支店、営業所、工場などがある事業者を対象に行った。事業者向けは385事業者、市民向けは2051人が回答した。

（霜村浩）

カード5枚盗まれ250万引き出される

前橋の87歳女性

11日午後、前橋市の女性(87)から「警察官だという男にキャッシュカードを渡したが、詐欺かもしれない」

オートバイ転倒　39歳男性が重傷

北関東道・駒形IC

13日午後3時25分ごろ、前橋市駒形町の北関東道駒形インターチェンジで、料金所から東行き線に向かっていた東京都江戸川区松江、建設業、鍋田慶一さん(39)のオートバイが転倒し、胸の骨などを折る重傷を負った。

県警高速隊によると、現場は左カーブ。鍋田さんは仕事からの帰宅途中だったという。近くを車で通過した運転手が110番通報した。同隊が事故原因を調べている。

323万円横領女を起訴

地検高崎支部

勤務先の取引先持株会から約323万円を着服したとして、前橋地検高崎支部は14日までに、藤岡市森、

時の話題

▽北関東在住のハンドメード作家22組が出品する「蔵KURAハンドメイド」が14日、桐生市本町の有鄰館煉瓦蔵で開かれ、来場者がお気に入りの一品を選んだ＝写真。

▽酒ボトルを再利用した光るオブジェ、県産絹糸を

者(54)を業務上横領の罪で前橋地裁高崎支部に起訴した。

起訴状などによると、金井被告は当時の勤務先である群栄化学工業（高崎市）で取引先持株会の拠出金管理業務などを担当していた2020年5月29日ごろ～12月4日、同会の口座から自分が管理する従業員持株会の口座に7回にわたって計322万7760円（手数料含む）を振り込み、着服したとされる。

んまプログラミングアワード 2022」に協賛しています。

世界を技術で支える

戦没者等のご遺族の皆さまへ

第十一回特別弔慰金の請求期限は

令和5年 3月31日(金)までです。

●請求期限を過ぎると、第十一回特別弔慰金を受ける権利がなくなりますので、お早めにご請求ください。

支給対象者　戦没者等の死亡当時の ①子 ②父母、孫、祖父母、兄弟姉妹 ③戦没者等の死亡時まで引き続き1年以上の生計関係があった甥姪 等のうち、先順位のご遺族お一人に支給します。（令和2年4月1日時点で「恩給法による